

令和元年度 福岡市精神保健福祉センター運営協議会 議事録

日 時	令和元年9月5日(木) 10:00~11:30
場 所	あいれふ7階 第3研修室
出席者	九州大学病院精神科神経科 助教 磯村 周一 福岡大学医学部 教授 川寄 弘詔 福岡中央公共職業安定所 統括職業指導官 井手 幸子 福岡県精神科病院協会 副会長 大村 重成 福岡市精神保健福祉協議会 会長 清成 厚美 オアシス 施設長 前田 美紀 福岡あけぼの会 理事長 宮本 政智 福岡県精神保健福祉士協会 代議員 吉田 登志子 こども未来局こども総合相談センター 所長 藤林 武史 保健福祉局 健康医療部長 石井 美栄 教育委員会 指導部長 木下 宏仁 中央区保健福祉センター 所長 田中 雅人
	事務局 福岡市精神保健福祉センター所長，同副所長， 同管理係長，同相談指導係長， 同社会復帰係長，同自殺対策係長
次 第	1 開会 2 審議 (1) 福岡市精神保健福祉センターの事業概要及び平成30年度実績報告 (2) 令和元年度事業計画(重点事業)
配布資料	資料1 福岡市精神保健福祉センター 平成30年度 所報 資料2 令和元年度精神保健福祉センター事業計画(重点事業)

(1) 会長選出

福岡大学医学部教授 川寄 弘詔 委員が会長に選出された。

(2) 福岡市精神保健福祉センターの事業概要及び平成30年度実績報告

○委員

17 ページのひきこもりの相談者の内訳について、本人の来所相談が多いが、本人の自発的な相談は困難ではないかと思うが、どのような流れで来所相談に至っているのか。

●事務局

最初から本人が相談することは少ない。家族からの相談に始まり面接を重ねる中で、個別支援、グループ支援へと繋がっている。昨年からは、グループ活動に参加する人も個別面接を行うこととしたので、来所者の数が増えている。

○委員

19 ページの薬物依存症者回復プログラムについて、対象者は保護観察所からの紹介で来ているとのことだが、福岡市で保護観察を受けている人は何人いて、どのような人がプログラムに参加しているのか。

●事務局

保護観察の人数は把握していない。保護観察所で実施しているプログラムや、雰囲気合わない方等がセンターのプログラムに参加している場合がある。

●事務局

保護観察所とは、毎月ケース会議を開き、連携体制を構築している。保護観察所から紹介されたケースの3割が国の研究に協力している。

○委員

20 ページのアルコール家族教室について、参加者が少ないが潜在的な患者はもっと多いと思われる。どういう経路で家族教室に参加しているのか。広報方法など、参加者を増やす手立ては考えているのか。

●事務局

アルコール依存症専門相談から繋がるケースが多い。広報はチラシの配布、市政日より、地域包括センターの会議などで紹介している。今後、特定健診や警察署への周知など、参加者増に努めていきたい。

●事務局

アルコール依存には長い歴史があり、自助グループや民間病院の家族教室へ行かれる方も多いため、そちらの家族教室を紹介したり、受け入れたりしている。

○委員

31 ページの相談事業について、ネット依存・ゲーム依存はその他に入ると思うが、今後増えるという印象がある。現在の状況、今後の方策についてお聞かせいただきたい。

●事務局

依存症はアルコール・薬物に加え、買い物、ギャンブルなど幅広くなっている。ゲーム依存はICD11に入っており、今後、増加するものと考えている。これらの依存症に力点を動かしつつ、アルコール・薬物依存も継続して講演会の実施等に努めていく。また、ひきこもりの方はネット・ゲーム依存になりやすいので、啓発にも力を入れている。

○委員

アルコール依存は社会資源が多い。ネット・ゲーム依存については民間機関もあると思うが、家族教室の実施を検討してほしい。潜在的な依存者は多いと思う。

○委員

ピアスタッフの研修を定期的にご利用いただき、ありがたく思っている。ピアスタッフは経験だけで動こうとするので、同じくらいの知識を持っていただき、全体を底上げするため、基礎知識をつけるための研修プログラムを検討してほしい。意欲を高めるため、何回受講すれば認定証を渡すといった、カリキュラムを組んだ研修を実施していただければありがたい。

●事務局

精神障がいに対応した地域包括ケアシステムの専門部会で、ピアサポートの活用について8月にワーキンググループをつくり、検討を始めている。養成講座やライセンス制度、ピアサポート活用のしくみづくり等検討していきたい。

○委員

23 ページの精神障がい者にも対応した地域包括ケアシステムは、名称が変更されているが、その検討部会の内容を説明していただいたら、事業所も認識できる。

●事務局

24 ページに記載している出前講座等の中で福岡市の動きを説明している。活用していただきたい。

○委員

出前講座について、城南・早良・西は実施していないが、どうなるのか。また糸島市との連携はどうなっていくのか。遅くなっているのは何か地域的な問題はあるのか。

●事務局

区ごとにネットワーク会議が行われており、そこで各関係機関と連携する機会がある。糸島市との連携については、同じ医療圏域でもあり、福岡県も含め情報共有が大事になっていくと考えている。既存のネットワークを生かしながら取り組んでいきたい。

○委員

地域包括ケアシステムについて、認知症の方は地域生活をどうしていくかが主題だが、精神障がい者は退院支援・地域移行が先行している。地域で生活していくためにどのような支援を行うかといったことが主題だと思うので、地域で話をするときは、そのことを意識してほしい。

○委員

福岡大学は特定機能病院であるが、精神科の場合は、急性期病院に入って、第二次医療機関、次は地域包括支援でという流れになっているわけでもない。地域資源・社会資源をどのように具現化していくのか、退院支援を行う際には、地域の病院、行政を入れて会議を行い、地域支援を行うプロセスを示していただければありがたい。城南区はそうやっていきたいと思った。

### (3) 令和元年度事業計画(重点事業)

#### ○委員

民生委員に、ひきこもりのアンケートが回ってきたが、ひきこもりとは一歩も外に出ない人なのか。民生委員には、どの程度かわからない。ひきこもりイコール精神障がいではないという説明はした。

#### ●事務局

ひきこもりの定義はアンケートに載せていたが、15才以上で社会的な人との関わりが6か月以上ない人で、趣味や買い物などで、たまに外に出る人も含んでいる。アンケートについては把握している範囲でお願いしている。

#### ○委員

地域包括ケアシステムは、病院、事業所だけの集まりなのか。地域で暮らしていくためにどうするかで、民生委員にも入ってほしいとの話が来るのか。高齢者のように自分たちも関わっていくのか不安に思っている。

#### ●事務局

福岡市は精神障がい者の地域包括ケアシステムの構築については、動き出して1～2年であり、検討を始めたばかりである。各エリアで話を進めていかなければならないと思っており、自治会や地域の方々とは意見交換しながら、検討していきたい。なお、ひきこもりのアンケートについては、結果が出たら市民児協の理事会等で報告する。

#### ○委員

地域で暮らしていて気になる人がいれば、基幹相談支援センター、いきいきセンターなどに相談には行く。警察や保健所などは事件を起こさないと動かないという。すぐ動いてほしいのに温度差が激しい。地域には問題がいっぱいあり、何ひとつ解決していかない。もう少し、すぐ動いて支援・改善できる方法を作してほしい。

#### ●事務局

ひきこもりについては、わかる範囲で回答してほしい。昨年、いきいきセンターを対象に、アンケートを行ったが、4割のセンターが、支援している高齢者世帯に40～50代のひきこもりがいらっしゃるという状況を把握した。今回の調査で、我々が把握し、支援をしていく体制をつくる資料とさせていただきたいということである。

どこかにつないだら解決ということではなく、継続して一緒にやっていかなければならないと思うが、ケースバイケースで、つなぎ先がわかりやすくなるような体制を作るための資料にさせていただきたい。

#### ○委員

精神障がい者支援体制の構築推進事業は、精神障がい者が地域包括システムの中でどうやって地域で生活していくのか、なので「その他」ではなくメインにしてほしい。精神障がいについては、就労の現場など様々な問題があり、事件などあると取り上げられるが、市民

の方の精神障がい者に対する基本的な理解がもっと進んでほしいと思っている。

●事務局

精神障がい者の全ての基本に社会復帰, 市民の心の健康の向上があり, 重要な課題だと認識している。